

## 宮崎大学診療科説明会開催

10月1日(土)に宮崎市において、専門医養成プログラム連絡会及び卒後臨床研修センター主催による『宮崎大学診療科説明会』を開催しました。

研修医24名(1年次11名、2年次13名)と各診療科等から医局長をはじめ38名、併せて62名の先生方の参加者がありました。

第3回目となった今年度の説明会は、専門医養成プログラム連絡会コーディネータの竹島教授の挨拶で始まり、診療科の紹介があり、先輩医師からの熱いメッセージと激励のことばをいただきました。研修医のみなさんは緊張気味でしたが、歓談が始まるとともに和やかな雰囲気となり、あちこちから笑い声も聞こえ、後半は研修医も積極的に診療科の先生方の話に聞き入り、有意義な情報交流と親睦を深めていました。

最後は、卒後臨床研修センターの小松副センター長の挨拶後、参加者全員で記念撮影を行い盛会のうちに終了しました。



## 研修医の声



Voice  
1年次研修医  
岡田 尚子  
(写真一番下)

1年目研修医の岡田です。早いもので、宮崎大学で研修が始まってから、あっという間に半年が過ぎました。この半年間、私は主に大学内の内科で研修させていただきました。他大学出身の私は、初めての場所で研修するという大きな不安がありましたが、温かく熱心な先生方や、良い仲間と出会って、とても有意義な研修医生活を送れています。研修医一人ひとりをサポートする雰囲気があるので、安心して研修できると思いますよ。

2年目研修医の松澤です。2年目研修医の皆さんは進路について悩んでいる時期だと思いますが、今回は研修医の目線から見た産婦人科についてちょっと語りたいと思います。



Voice  
2年次研修医  
松澤 聡史  
(写真右側)

自分は学生の段階ですでに産婦人科、特に産科にと心に決めていたわけですが、研修を始めると産科の大変さを改めて実感させられました。一歩判断を誤ると生まれてくる子に障害を残してしまう可能性のあるお産もあれば、まったくこちらが手を出さなくてもすんわり終わるお産もあります。後者の場合がほとんどなのですが、産科のやりがいを感じる場面はやはり前者だと思います。大変なお産を母子ともに終えられた時の何とも言えない充実感他科では味わえないところだと思います。産科での研修はわからないことだらけでへこみ続ける毎日でしたが、母子ともに元気にお産を終えた顔を見ては、元気を取り戻しています。大変な日々ですが、やりがいのある仕事につけたことに日々感謝し、これからも笑顔のために走り続けていきたいです。